===============================================================================

アドイン版　Casio Basic Interpreter (& Compiler) for CG ver 0.5x α版

copyright(c)2015/2016/2017/2018 by sentaro21

e-mail sentaro21@pm.matrix.jp

===============================================================================

Casio Basic インタプリタのアドイン版、略してC:Baisc（現状インタプリタのみなのでC.Basic）のCG版のとりあえず動く版です。

・特徴

　純正Casio Basic互換（を目指しています）。

　純正Casio Basicよりも高速動作（10倍以上）。

　操作方法はほぼCasio Basic準拠です。

　純正Casio Basic互換の新規ソースファイルの作成、編集が可能です。

　ソースファイルはメインメモリではなくストレージメモリに置かれます。（サブフォルダは１階層まで対応しています。）

　純正Casio Basic上位互換で独自拡張機能を随時追加していきます。

fx-9860Gシリーズのg1mと、fx-CGシリーズのg3mに対応しています。

・欠点

　現在のところ、CG50のみフル動作可能でCG10/20では一部機能が動作しませんが将来的には両機種完全対応します。

　純正Casio Basicのサブセットです。全部の命令が使えません。というか一部の基本的な命令のみのサポートです。

　数値演算はCの倍精度2進演算により精度＆誤差が若干違います。

　PICTがメインメモリ上だけで使えます。

　現状とりあえず動く版なので間違いなくバグが大量に残っています(^^；…ので、バグ報告＆追加機能の要望などよろしくお願いします。

========================== 注意!!! ============================================

このツールの使用によって電卓が破壊される可能性はまず無いと思いますが、

予期せぬバグ等でメインメモリが破壊されオールリセットになる可能性はあります。

このツールの使用はメインメモリ＆ストレージメモリのバックアップをとった上でお願いいたします。

作者はこのツールの使用の結果においていかなる責任も負わないものとさせていただきます。

===============================================================================

========================== 注意!!!その２ ======================================

CG10/20では画面更新が遅いのでPtune2で100MHz以上に上げないと画面描画が間に合わず上手く動作しません。

その場合、Ptune2での[F4]プリセットではシステムエラーになる場合があります。

ROMタイミング不足ですのでPtune2でのROMアクセスタイミングを一段階緩めて下さい。

乗算キー[X]を押すとROMタイミングが増えます。

（デフォルトクロックで起動した場合は自動的にオーバークロックします。（58MHz->118MHz）

===============================================================================

-------------------------------------------------------------------------------

C.Basic の起動

-------------------------------------------------------------------------------

起動すると、ファイルリスト画面になります。ここでファイルを選択します。

純正Casio Basicで既に作成しているBasicファイルを、このファイルリストに追加するには、

メインメモリにある元のBasicファイルをストレージメモリへコピーします。

（単一ファイルに限ります。複数ソースファイルをまとめたファイルは未対応です。）

===============================================================================

クイックマニュアル - C.Basic の開発環境

===============================================================================

-------------------------------------------------------------------------------

ファイルリスト画面（CasioBasic準拠っぽく…ちょっと違っています）

-------------------------------------------------------------------------------

-[UP] 一つ前のファイルを選択します。

-[DOWN] 一つ後のファイルを選択します。

（ファイル選択画面ではA-Zのキーを押すとそれを先頭とするファイルにジャンプします。fx-5800P/fx-CG準拠です）

-[F1] (EXE) 選択ファイルを実行します。

-[F2] (EDIT) 選択ファイルを編集します。

-[F3] (NEW) 新規ファイルを作成します。

-[F4] (COPY) ファイルをコピーします。

-[F5] (DEL) 選択ファイルを削除します。

-[F6] ( > ) 次のメニューに移動します。

　　[F1] (>txt/>g1m/>g3m) 選択されたBasicソースファイルをテキストファイル/g1mファイル/g3mファイルへ変換します。

　　[F2] (RENAME)ファイル名を変更します。

　　[F3] (Fav.) 選択ファイルをお気に入りに追加、解除します。

　　[F4] (Fv.↑) お気に入りを一つ上に移動します。

　　[F5] (Fv.↓) お気に入りを一つ下に移動します。

　　[F6] ( > ) 次のメニューに移動します。

　　[F1] (MKEFLDR) フォルダを作成します。

　　[F2] (RENFLDR) フォルダ名を変更します。

　　[F6] ( > ) 前のメニューに移動します。

-[EXE] プログラムを実行します。

-[SHIFT]

[EXIT](QUIT) サブフォルダからルートに戻ります。

[UP] お気に入りを一つ上に移動します。

[DOWN] お気に入りを一つ下に移動します。

　　[F1] (Var) 変数画面

　　[F2] (MAT) Mat変数画面

　　[F3] (V-WIN)ViewWindow表示

　　[F4] (Pass) パスワード設定/解除

　　[F6] (Debg) デバッグモードでエディタを起動します。

-[VARS] 変数画面

　　[F1] (A<>a) 大文字変数と小文字変数、任意英数字名変数の表示切替え

　　[F2] (INITIAL) 表示変数の一括初期化

　　[F3] (D<>I) 整数変数と実数変数の表示切替え

　　[F6] (->Hex/->Dec) 16進数/10進数表示に切り替え

-[SHIFT]

[MENU] (SETUP) 初期設定

　　 [F6] バージョン情報表示

-[OPTN] 選択ファイルをお気に入りに追加、解除します。

-[EXIT] ファイルリストの最初に戻ります。

すでにファイルリストの最初の場合はルートに戻ります。

-------------------------------------------------------------------------------

エディタ編集画面（CasioBasic準拠っぽく…ちょっと違っています）

-------------------------------------------------------------------------------

・ファイル内のカーソルの現在位置を示すスクロールバーが右端に表示されます。

-[F1] (JUMP) ジャンプサブメニューを表示します。

[F1] (TOP↑) ファイル先頭にジャンプします。

[F2] (BTM↓) ファイル末尾にジャンプします。

　　[F3] (GO) ファイルの任意の行にジャンプします。（画面上での見た目上での行数です）

　　[F5] (Skip↑) （セットアップで設定された）ページ数スキップアップします。

　　[F6] (Skip↓) （セットアップで設定された）ページ数スキップダウンします。

-[F2] (SEARCH) 文字列サーチ/置換モードに入ります。

-[F3] (COMMAND) コマンド選択画面（fx-5800P準拠モード）（ここで選択できるコマンドがサポートされています）

(MENU) コマンド選択モード（fx-CG/9860G準拠モード）

-[F4] (A<>a) 大文字小文字切り替え

-[F5] (CHAR) キャラクタ選択画面

-[F6] (EXE) プログラムを実行します。一時停止状態であれば再開します。

-[SHIFT]

[EXIT](QUIT) ファイルリスト画面に戻ります。

[LEFT] エディタの表示文字の大きさおよび行間隔を小さくします。

[RIGHT] エディタの表示文字の大きさおよび行間隔を大きくします。

[UP] 　（セットアップで設定された）ページ数スキップアップします。

[DOWN] （セットアップで設定された）ページ数スキップダウンします。

　　[F1] (Var) 変数画面

　　[F2] (MAT) Mat変数画面

　　[F3] (V-WIN) ViewWindow表示（fx-5800P準拠モード）

(V-WIN) コマンド選択モード（fx-CG/9860G準拠モード）

　　 [F4] (VWIN) ViewWindow表示（fx-CG/9860G準拠モード）

　　 [F5] (Dump)/(List) Basicリスト表示/16進ダンプ表示切替（fx-CG/9860G準拠モード）

　　 [F6] (G<>T) グラフィックス画面とテキスト画面の切替（fx-CG/9860G準拠モード）

　　[F4] (SKTCH)コマンド選択モード（fx-CG/9860G準拠モード）

　　[F4] (Dump)/(List) Basicリスト表示/16進ダンプ表示切替（fx-5800P準拠モード）

　　[F5] (A<>a) 大文字小文字切り替え

　　[F6] (CHAR) キャラクタ選択画面

[6] カラーピッカーを起動します。

[3] Getkeyコマンドのキーコードを入力します。

-[OPTN] OPTN対応コマンド入力画面（ここで選択できるコマンドがサポートされています）

-[VARS] VARS対応コマンド入力画面（ここで選択できるコマンドがサポートされています）

-[SHIFT][VARS] (PRGM) PRGM対応コマンド入力画面（ここで選択できるコマンドがサポートされています）

-[MENU] コマンド入力履歴（左右キーで時系列⇔入力頻度順を切り替えられます。）

-[SHIFT][MENU] (SETUP) 各種設定 （後述）（fx-5800P準拠モード）

　　[F6] バージョン情報表示（fx-5800P準拠モード）

　　　　　　　　　　　 SETUP対応コマンド入力画面（ここで選択できるコマンドがサポートされています）（fx-CG/9860G準拠モード）

-[EXIT] サブメニューからメインメニュー、クリップモードのキャンセル、またはファイルリスト画面に戻ります。

-------------------------------------------------------------------------------

デバッグモード編集画面　（通常エディタと違う部分）

-------------------------------------------------------------------------------

-[F1](Cont)：カーソル位置よりプログラムを再開します。

-[F2](TRACE)：カーソル位置よりトレース実行。コマンド実行後、即エディタ画面に戻ります。

-[F3](STEPS)：カーソル位置よりトレース+ステップオーバー。サブルーチンの場合は一気に実行されます。ステップ実行後、即エディタ画面に戻ります。

-[F4](S.OT)：カーソル位置よりステップアウト。サブルーチンの終了まで一気に実行します。ステップ実行後、即エディタ画面に戻ります。

-[F5](L<>S)：エディタリスト表示とプログラム実行画面の切替をします。切替後も実行画面が維持されるので実行画面そのまま[F1]-[F4]のデバッグ動作が可能です。

-[F6]( > ) ：デバッグメニューとエディタメニューを切り替えます。実行画面（グラフィック/テキスト）の場合はファンクションメニュー表示をします。

-[EXIT] サブメニューからメインメニュー、クリップモードのキャンセル、または通常エディタ画面に戻ります。

-------------------------------------------------------------------------------

プログラム実行時（ほぼCasioBasic準拠…です）

-------------------------------------------------------------------------------

-[AC] プログラム実行を中止します。

[EXIT]　デバッグモードのエディット画面に戻ります。カーソルは中断箇所を示します。

[←]　　デバッグモードのエディット画面に戻ります。カーソルは中断箇所を示します。

[F1] プログラムに復帰します。

[EXE]　プログラムに復帰します。

▲一時停止コマンドで停止した時(- Disp - 表示の時)

-[SHIFT]

　　[F1] 変数画面

　　[F2] Mat変数画面

　　[F3] ViewWindow表示

　　[F6] グラフィックス画面とテキスト画面の切り替え

-[EXE]　プログラムを再開します。

===============================================================================

CasioBasicとの相違点

===============================================================================

基本的には全く同じ動作になるように作成されていますが、動作の違う部分があります。

・？コマンドの入力部分は1ラインのみで横スクロールします。

・描画コマンドの直後が：（区切りコード）だと画面書換え更新をしません。（グラフィック命令、Locate,Text等）

・プログラム終了時に実行時間を表示することができます。（セットアップで設定）

・コメント文の終了は改行と▲一時停止コマンドのみです。：（区切りコード）では終了となりません。

さらに同じCasioBasicが動作するプログラム関数電卓のfx-5800Pの便利な部分を取り込んでいます。

・？コマンドで？A形式を追加サポートしています。

・文字列出力コマンド " " の出力仕様はfx-5800P 完全準拠で、fx-9860G/fx-9860GII/fx-CGには準拠していません。

　fx-5800Pとfx-9860G/fx-9860GII/fx-CGのCasioBasic仕様の違いについては、

　やす(Krtyski)様のサイトに詳細な解説がありますので参照して下さい。

　http://egadget.blog.fc2.com/blog-entry-170.html

===============================================================================

-[SHIFT][MENU] (SETUP) セットアップでの設定

===============================================================================

Angle :Deg/Rad/Gra

Complex Mode:Real/a+bi/r∠θ

Draw Type :Connect/Plot

Coord :on/off/Line

Grid :on/off/Scale

Axes :on/off

Label :on/off

Derivative :on/off

Background :None / Pict1-20

Plot/LineCol:Black etc.

Sketch Line :Normal/Thick/Broken/Dot/Thin

~~Angle :Rad/Deg/Grad~~

----------------------------ここまで純正CasioBasic互換です。

-------------------------------------------------------------------------------

Display :Fix/Sci/Nrm/Eng

小数以下の桁数は15桁まで。0を指定した場合は16桁となります。

Nrmに関してはNrm1とNrm2のみCasioBasic互換10桁表示仕様です。

Nrm1：0.01以下は指数表示

Nrm2：0.000000001以下は指数表示

それ以外は桁数指定となります。

Eng ：ENGオフ、ENGオン(/E)、3桁区切り(/3)の切り替えとなります。

・関連コマンド Eng,Norm,Fix,Sci

-------------------------------------------------------------------------------

Exp Display : E / Stdx10 / Allx10

　　　　指数表示の記号を選択します。

　　　E: -1.23e99　従来の表示形式です。

Stdx10: -1.23(x10)99 スタンダードフォントのみ切り替わります。

Allx10: -1.23(x10)99 すべてのフォントサイズで切り替わります。

・関連コマンド '#exp 0 //　従来の表示形式です。

'#exp 1 //　スタンダードフォントのみ切り替わります。

'#exp 2 //　すべてのフォントサイズで切り替わります。

-------------------------------------------------------------------------------

SetupRecover : On/Off

すでにセットアップで設定してある上記の純正CasioBasic互換設定をプログラム終了後に復帰するかどうかを設定します。

-------------------------------------------------------------------------------

Command Inpt : C.Basic/Standard

コマンド入力方法をC.Basic(fx-5800P)方式とStandard(fx-9860G)方式を選択できます。

-------------------------------------------------------------------------------

[X]character : [0x90]/[X]

[X,θ,T]キーで入力できる文字を選択します。

-------------------------------------------------------------------------------

EnableExFont : on/off

外部フォントの使用を設定します。

・関連コマンド SetFont 0 //　外部フォント無効

SetFont 1 //　外部フォント有効

-------------------------------------------------------------------------------

Edit ExtFont : On/Off

エディタ上で外部フォント表示を使用します。

-------------------------------------------------------------------------------

Edit GB Font : On/Off/Full

エディタ上でのGBフォントの表示を設定します。

Off:GBフォントを表示しません。通常のモードです。

On:コマンド＆特殊文字と重なるF7xx,F9xx,E5xx,E6xx,E7xxのGBコードを除いて表示します。

（※文字列に0x03A8コードがあればそれ以後の文字列はFull表示になります。文字列コマンドの終了でOn表示に戻ります。）

Full:内蔵のすべてのGBフォントを表示します。（GBコードと重なる一部コマンドがGBフォントに化けます。）

（※この設定はエディタとテキスト変換で有効になります。プログラム内での制御は以下のコマンドを使用して下さい。）

・関連コマンド '#GB0 GBフォントを表示しません。従来のモードです。

'#GB1 以後、コマンド＆特殊文字と重なるF7xx,F9xx,E5xx,E6xx,E7xxを除いてGBコードとして表示します。

'#GB2 以後、内蔵のすべてのGBコードを表示します。

-------------------------------------------------------------------------------

EditFontSize : Standard/Mini/MiniMini/MiniMiniFX /+Fixed pitch/+Gap

表示文字の大きさおよび行間隔を変更します。

-------------------------------------------------------------------------------

Edit LineNum : On/Off

行番号表示を選択します。

-------------------------------------------------------------------------------

EditListChar : List / 反転L / ボールドL

ListとMat表示を短縮表示（1文字の反転とボールド）に切り替えます。

-------------------------------------------------------------------------------

Edit-backCol : Black/Blue/Red/Magenta/Green/Cyan/Yellow/White/16ビットカラー

エディタの背景色を設定します。

-------------------------------------------------------------------------------

Edit-baseCol : Black/Blue/Red/Magenta/Green/Cyan/Yellow/White/16ビットカラー

エディタの基本色を設定します。

-------------------------------------------------------------------------------

E-NumericCol : Black/Blue/Red/Magenta/Green/Cyan/Yellow/White/16ビットカラー

エディタの数値表示色を設定します。

-------------------------------------------------------------------------------

E-CommandCol : Black/Blue/Red/Magenta/Green/Cyan/Yellow/White/16ビットカラー

エディタのコマンド表示色を設定します。

-------------------------------------------------------------------------------

Ed-QuteColor : Black/Blue/Red/Magenta/Green/Cyan/Yellow/White/16ビットカラー

エディタの文字列表示色を設定します。

-------------------------------------------------------------------------------

E-CommentCol : Black/Blue/Red/Magenta/Green/Cyan/Yellow/White/16ビットカラー

エディタのコメント表示色を設定します。

-------------------------------------------------------------------------------

E-LineNumCol : Black/Blue/Red/Magenta/Green/Cyan/Yellow/White/16ビットカラー

エディタの行番号表示色を設定します。

-------------------------------------------------------------------------------

Auto OverClk : on/off

起動時、自動オーバークロックが必要な場合に確認します。

-------------------------------------------------------------------------------

Use Hidden RAM : on/off

隠しRAMをC.Basicで使用するかどうかを設定します。（fx-CG10/20は未対応です。）

fx-CG50では8MBのRAMが搭載されており、そのうち6MBはOS未使用領域となっているためにこれをプログラム領域と行列領域として利用できるようにします。

-------------------------------------------------------------------------------

HiddenRAM Init : on/off

隠しRAM使用時に、Mat行列&ListをC.Basic起動時に初期化するかどうかを設定します。（fx-CG10/20は未対応です。）

初期化しない場合は、Mat行列&Listの結果が消えないで残ります。

（※注意　ただし、CG50では電源オフから１時間でメモリがクリアされてしまうので、C.Basicが再起動します。）

-------------------------------------------------------------------------------

Max Pict No : 20 ～20

CGシリーズでは無効です。20から変更できません。

-------------------------------------------------------------------------------

Max List No : 52 ～1040

隠しRAM使用時に、Listの上限を増やせます。

設定を変更するとPict＆Mat＆Listデータが初期化されます。

-------------------------------------------------------------------------------

AT DebugMode : on / off

[AC]で中断した時にデバッグモードの有効/無効を設定します

-------------------------------------------------------------------------------

Break Stop :on/off

[AC]キーによる中断の有無。

offの場合は[AC]キーによる中断が出来ません。

・関連コマンド '#Break0 //　[AC]キー無効

'#Break1 //　[AC]キー有効　（デフォルト）

-------------------------------------------------------------------------------

Exec TimeDsp : on/off/%HR/on reset

プログラム終了時にプログラムの実行時間を表示します。

計測開始はプログラムの最初の行からですが、途中？コマンドや一時停止コマンドがあった場合はそれまでの計測時間はリセットされます。

Getkey1/2の場合は計測が一時停止になり、コマンド実行後に再スタートします。

on resetは、Getkey1/2実行後に計測がリセットされ再スタートします。

%HR:計測に1/32768sタイマーを使います。

・関連コマンド '#GetkeyC //　Getkey1/2実行後に時間計測を一時停止、リスタートします。（デフォルト）

'#GetkeyR //　Getkey1/2実行後に時間計測がリセット＆リスタートします。

-------------------------------------------------------------------------------

IfEnd Check : on/off

IfとIfEndが一対一で対応しているかどうかをチェックします。

-------------------------------------------------------------------------------

ACBreak : on/off

ACBreakコマンドの有効/無効を切り替えます。

・関連コマンド ACBreak

-------------------------------------------------------------------------------

Force Return : None/ F1/ EXE/ F1&EXE

プログラム実行中の中断でエディタに戻るかファイルリストに戻るかを選択できます。

-------------------------------------------------------------------------------

Key 1st time : 25ms～1000ms(デフォルト値 500ms)

リピート開始までの時間 (25ms単位)

Key Rep time : 25ms～500ms(デフォルト値 125ms)

リピート継続時間 (25ms単位)

-------------------------------------------------------------------------------

SkipUp/Down : 1～9999

SkipUp/SkipDownでの一回分の改ページ数を指定します。

※改行ごとに一行増える論理行ではなく画面上での見た目上での物理行数です。

-------------------------------------------------------------------------------

Mat Dsp mode : [m,n]/[X,Y]

行列エディタ画面での表示形式を指定します。

それぞれ転置行列の関係になりますが、行列内部は何も変化なく表示上だけの指定です。

Matrix base : 0/1

行列インデックスの初期値を0か1が指定します。

初期値に0を指定した場合は、グラフィック座標が左上端の(0,0)から有効になります。

・関連コマンド '#Mat 0 //　行列のインデックス開始値を0にします。

'#Mat 1 //　行列のインデックス開始値を1にします。（デフォルト）

-------------------------------------------------------------------------------

Pict mode : S.Mem/Heap/Both

(S.Mem/SD)　Pictファイルをストレージメモリ上に作ります。若干時間がかかります。

(Heap)　Pictファイルとしては作成されずにメモリ上に互換ファイルが作成されます。（推奨設定です）

(Both)　HeapモードでもPictファイルが常にストレージメモリ上に作成されます。

-------------------------------------------------------------------------------

DATE : 2017/01/17 MON

TIME : 23:59:59

内蔵RTCを設定します。曜日は自動設定されます。

・関連コマンド DATE、TIME

-------------------------------------------------------------------------------

Storage mode : S.Mem/Main Mem

ファイルの保存先、ファイル操作の対象を選択します。

-------------------------------------------------------------------------------

Auto file save : on/off

編集後、自動的に保存するかどうか設定します。

-------------------------------------------------------------------------------

Force g1m save : on/off

テキストファイル編集／実行後に同時にg1m形式でも保存するかどうかを設定します。

-------------------------------------------------------------------------------

Direct GB cnvt : on/off

プログラム内のGBコードをテキスト変換無しでそのままテキストファイルに保存するかどうかを設定します。

（※変換無しでテキストファイルにした場合はGB2312対応エディタではそのまま表示できます。）

（※変換対象GBコードはエディタのGBコード表示モードに対応しています。）

-------------------------------------------------------------------------------

RefrshCtl DD : off/Grp/All

描画コマンドにおける画面の更新を設定できます。

Off：リフレッシュコントロール無し。表示においては純正互換仕様です。

Grp：グラフィックコマンドのみリフレッシュコントロール有り。ClrText,Locate,Text,LocateYX,””は無しで以前のバージョン互換です。

All：すべての描画コマンドがリフレッシュコントロールされた表示となります。必要に応じてPutDispDDコマンドが必須となります。

Time：リフレッシュコントール時間を設定します。n/128秒単位で画面更新します。デフォルトは3で約1/42秒での更新となっています。

　　　0を指定するとリフレッシュされなくなります。

・関連コマンド RefrshCtrl/RefrshTime

-------------------------------------------------------------------------------

Wait count : 0～9999

C.Basic全体の実行速度を調整します。

・関連コマンド Wait

-------------------------------------------------------------------------------

G1M/G3M mode : Auto/g3m/g1m

デフォルトのプログラムの実行モードを切り替えます。

・関連コマンド '#G1M

'#g1m

'#G3M

'#g3m

-------------------------------------------------------------------------------

Execute mode : DBL#/INT%/CPLX

デフォルトのプログラムの実行モードを切り替えます。

・関連コマンド '#CBasic

'#CBASIC

'#CBDBL

'#CBdbl

'#CBINT

'#CBint

'#CBCPLX

'#CBcplx

===============================================================================

謝辞

===============================================================================

プログラム内部仕様＆情報は

SuperH-based fx calculators (version 20)

Cemetech WikiPrizm,

を参考にさせていただいています。(一部プログラム引用させていただいています。）

基本ソース部分はfx-9860Gシリーズ版のC.Basicからの移植です。

CASIO公式SDK1.00に基づくminiSDK1.09によりコンパイルされています。

このツールのファイル操作部分は、

http://community.casiocalc.org/topic/6836-wsc-fvm-v12-casio-fx-9860-series-on-calc-c-compiler/

Wsc & Fvm V1.2 - Casio Fx-9860 Series On-calc C Compiler

を参考にさせていただいています。(一部引用）

g1mモードにおけるカナフォントはこちらのサイトよりカナフォントデータおよび表示ルーチンを引用させていただいています。

http://www.d-b.ne.jp/~k-kita/fx\_sdk\_005.html

g3mモードの外部フォントはIPAフォントを使わせていただいております。

PierrotLL氏とNinestars作成のMonochromeLibをCG対応版として修正して使わせていただいています。

Patrick Powell氏のオリジナルsprintfを改良したsprintfソースを利用させていただいています。

純正CasioBasicとの動作互換性チェックにおいて大変有用なプログラムをたくさん掲載されているPlanet-Casioと作者の皆様に感謝いたします。

プログラム実行時の細かい動作に関しては、

やす(Krtyski)様の

e-Gadget - プログラム関数電卓

プログラム電卓の濃い話： 今は fx-5800P / fx-9860GII と Casio Basicプログラミングが中心

http://egadget.blog.fc2.com/

を参考にさせていただいています。

C.Basicが誕生するきっかけとなったサイトです。

管理人様および、ガノー様(FX版)、ツル様(FX+CG版)、iron2様(CG版)、Colon様(CG版)

には対応アプリの開発+バグ出しで大変お世話になっております。

いつもありがとうございます。

これからもよろしくお願いいたします。

最後にとても興味深いグラフ電卓を発売してくださったCASIO計算機（株）に感謝いたします。

このアドインプログラムが皆様のお役に立つことがあれば幸いです。

===============================================================================

ライセンス

===============================================================================

このソフトウエアはフリーソフトウエアです。

ライセンスはGPLv2に準じます。

===============================================================================

ご質問、ご要望、バグ報告等

===============================================================================

やす(Krtyski)様のサイトにてC.Basic for CG プロジェクト専用エントリを作成していただいています。

http://egadget.blog.fc2.com/blog-entry-630.html

ご質問、ご要望、バグ報告等ありましたらコメント欄にて随時受け付けています。

UCF

http://community.casiocalc.org/topic/7637-cbasic-international-release/

Planet-Casio

http://www.planet-casio.com/Fr/forums/topic14738-1-C.Basic.html

===============================================================================

更新履歴

===============================================================================

ChangeCG\_J.txtを参照して下さい。